

関東ブロックリハコーディネーター連携推進委員会 議事録

1. 日時: 2016年1月30日(土) 13時~16時30分
2. 場所: 慶應義塾大学医学部キャンパス内 臨床研究棟 第2会議室
3. 出席者: 別紙リスト参照

【議事】

1. JRAT 企画委員会委員長の里宇より、本ブロック会議の目的について、ブロック内の都県間で情報交換・共有を行うとともに、地域 JRAT 組織化に向けての課題と今後の活動方針について議論することにあることが説明された。
2. JRAT の活動状況: 里宇より、JRAT の事業方針・事業計画と予算、事業計画の進捗状況および最近の動向として、災害救助法における位置づけ、DMAT、JMAT、DPAT 等との連携、国土強靱化計画における JRAT の位置づけ等について報告が行われた [プレゼン資料 1 および配布資料 1~9]。
3. 関東ブロック各地域での取り組み状況と課題について、以下の発表と質疑が行われた。
 - 1) 茨城県の取り組み状況と課題: 東北・関東豪雨の経験を踏まえて: 大仲功一 [プレゼン資料 2-1]、配布資料 11]
 - 2) 栃木県 JRAT: 船越政範 [プレゼン資料 2-2、資料 12]
 - 3) 千葉県の取り組み状況と課題: 藤本幹雄 [プレゼン資料 2-3]
 - 4) 東京都:
 - ① 取り組み状況と課題: 真野浩志 [プレゼン資料 2-4] -1]
 - ② 区西部地域リハ支援センターとしての取り組み: 里宇明元 [プレゼン資料 2-4] -2、配布資料 10]
 - 5) 山梨県の取り組み状況と課題: 磯野弘司 [プレゼン資料 2-5]
 - 6) 埼玉県の取り組み状況と課題: 阪井之哉 [プレゼン資料 2-6]
 - 7) 神奈川県 JRAT: 今川裕子 [プレゼン資料 2-7]、配布資料 13]
 - 8) 地域リハビリテーションと災害: 群馬県の取り組み状況と課題: 和田直樹 [プレゼン資料 2-8]

«
4. 地域 JRAT 組織化に向けての課題および今後の活動方針について、以下の話し合いが行われた。
 - 1) 関東ブロックとして、年に 1 回のブロック会議を定例化する。今後の呼びかけは関東ブロック代表の藤本先生が行う。
 - 2) 本日の会議資料を Dropbox を活用して共有する。今後、情報交換・共有のツールとしても活用していただけるようにコンテンツを整備していく。
 - 3) 地域 JRAT メンバーが、コーディネーター研修を受講した時点から、異動、音信不通等の理由により大幅に入れ替わっている地域もある。異動の際に後任が決められていない場合もあり、体制の見直しが必要。
 - 4) 特に医師の関わりが希薄もしくはまったくないことが活動の支障になっている地域がある。これに対し、リハビリテーション医学会関東地方会として、都県ごとに災害担当を置く方向を検討していただく (関東地方会代表幹事: 芳賀先生)。
 - 5) 地域 JRAT の構築にあたり、その戦略および組織形態は、以下のように地域により異なっていること、および、地域の実情に応じた対応が必要なことが確認された。
 - ① 地域リハ支援センター等の仕組みの活用 (東京都リハビリテーション協議会災害時リハビリテーション支援体制検討部会、茨城県地域リハビリテーション普及促進協議会)
 - ② 県レベルの団体横断的な災害リハビリテーション連絡会の立ち上げ (栃木県災害リハビ

リテーション連絡会、千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会)

- ③ 地域リハビリテーション支援センターとリハビリテーション病院・施設協会を核とした組織づくり (山梨県災害リハビリテーション推進協議会)
 - ④ 三士会を中心とした組織づくり (埼玉県、神奈川県) : 医師の関与、医師会との関係づくりが課題。
 - ⑤ 県レベルの組織形態を模索中 (群馬県) : 地域リハ支援センターを核にすることが可能かどうか、再度、アプローチ予定。
- 6) 災害時に公務として派遣されるためには、病院経営者の理解が不可欠であり、山梨県のようにリハ病院・施設協会が県単位で存在している地域では、同協会のコミットを得ることが重要であることが確認された。
 - 7) 本日の会議を受けて、各地域の課題とアクションプランを一定のフォーマットでまとめて共有していくことが確認された。
 - 8) 災害時の補装具提供体制における日本義肢装具士協会、日本義肢装具学会の役割について質問がなされ (芳賀先生)、JRAT メンバーに両団体が入っていること、茨城の水害においては、義肢装具士協会を中心に補装具提供体制が構築されたことが報告された。
 - 9) 災害時の本部立ち上げマニュアル (JRAT 本体および地域 JRAT) について、現在、ワーキンググループで検討中の案が紹介された。
 - 10) 地域 JRAT の組織化・活性化のためには、県および医師会等との関係構築が重要であるが、苦勞している地域が多く、JRAT との連携について厚労省や日本医師会からトップダウンの通達が地方自治体および地域医師会に発出されるような働きかけを強化して欲しいとの要望が出された。
 - 11) 以上の議論を受けて、里宇より今後も地域からの JRAT に対する要望をきめ細かく吸い上げ、戦略会議にフィードバックしていくことが明言された。

(文責：里宇明元)

【資料一覧】

- A. プレゼン資料：1.JRAT 活動状況、2-1) 茨城県、2-2) 栃木県、2-3) 千葉県、2-4) 東京都、2-5) 山梨県、2-6) 埼玉県、2-7) 神奈川県、2-8) 群馬県
- B. 添付資料
- ・ 資料 1.地域 JRAT の活動状況（アンケート調査）
 - ・ 資料 2.研修会スライド（富岡先生提供）
 - ・ 資料 3.JRAT パンフレット
 - ・ 資料 4.東日本大震災派遣活動報告書
 - ・ 資料 5.JRAT 会則
 - ・ 資料 6-1) 大規模災害における応急救助の指針について
 - ・ 資料 6-2) 災害救助事務取り扱い
 - ・ 資料 6-3) リハ議連からの要望書に対する厚労省からの回答
 - ・ 資料 7.災害協定書のサンプル
 - ・ 資料 8.JRAT 本部立ち上げ簡易マニュアル
 - ・ 資料 9.愛媛県協定書→回覧後、回収
 - ・ 資料 10.東京都区西部地域リハ支援センター研修会企画
 - ・ 資料 11.茨城県 JRAT 活動報告（平成 27 年 9 月関東・東北豪雨）
 - ・ 資料 12. 第 1 回 栃木県災害リハビリテーション研修会抄録集
 - ・ 資料 13. 大規模地震時医療訓練参加報告書（神奈川県）

【出席者名簿】 ◎：都県代表

地域	氏名	職種	所属・役職
東京	◎真野浩志	MD	東京大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学・大学院生
	里宇明元	MD	慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室・教授
	芳賀信彦	MD	東京大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学・教授
群馬	◎和田直樹	MD	群馬大学大学院医学系研究科リハビリテーション医学分野・教授
	大竹弘哲	MD	群馬大学大学院医学系研究科リハビリテーション科・部長
栃木	◎船越政範	MD	とちぎリハビリテーションセンター・診療副部長
	大屋晴嗣	PT	医療法人社団友志会 リハビリテーション花の舎病院リハビリテーション部
茨城	大仲功一	MD	医療法人博仁会志村大宮病院・副院長・リハビリテーションセンター長
	◎阪井之哉	OT	真正会 霞ヶ関南病院ホスピタルケア部・チームサブマネジャー
埼玉	菊地裕美	PT	愛友会 介護老人保健施設 一心館
	◎藤本幹雄	MD	総合病院国保旭中央病院リハビリテーション科
神奈川	◎今川祐子	PT	済生会横浜市東部病院リハビリテーション部
	大郷和成	OT	放課後等デイサービス 「遊びリパーク Lino' a」
山梨	◎磯野弘司	OT	春日居サイバーナイフ・リハビリ病院リハビリテーション部
	三井伸一	PT	山梨県立中央病院リハビリテーション科
	赤池 洋	ST	山梨大学医学部附属病院リハビリテーション科

欠席

埼玉	嶋崎寛子	OT	文京学院大学 保健医療学部 作業療法学科・助手
----	------	----	-------------------------